

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100217		
法人名	株式会社 かみのくら		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム		
所在地	岐阜県可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2193100217-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念「老いても、個人として尊重され自分らしく生きることを大切にしましょう」をスタッフ全員大切に、利用者様には毎日ゆったりとした時間を過ごして頂いております。また、4月には桜が満開になり、四季折々の風景を散歩、東屋などに出て楽しんで頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年、運営法人の変更があったが、職員は、そのまま継続勤務している。運営理念「老いても、個人として尊重され自分らしく生きることを大切にしましょう」を掲げ、利用者の残存機能維持に重点をおき、レクリエーションを兼ねたリハビリ体操など、積極的に取り組んでいる。また、日用品の補充を家族に依頼することで、家族に会える機会とし、利用者の楽しみと心の安定に繋がっている。コロナ禍の今も、窓越しの面会を実施し、利用者にも、コロナ対応について分かりやすく説明している。収束後の支援については、利用者の希望を聞きながら、穏やかな日常生活が送れるよう支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域は住宅地なので小中学校も徒歩圏内にあり、今までもボランティアの受け入れや福祉体験の受け入れ運動会の見学などをしてきたが、コロナウイルスの為現在は出来ていない。	理念「老いても、個人として尊重され自分らしく生きることを大切にしましょう」を、スタッフルームや各ユニットの職員の目に付きやすい場所に掲示している。職員は、日々のケアを振り返り、理念に沿った支援が出来ているかを確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みんなの家などへ出掛ける事で地域の人との交流が出来ていた。機会を見て出掛けたいと思う。	事業所は大きな住宅街の中にあり、クリニック、大型スーパー、農協等、地域住民と交流しやすい場所である。自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加しをしていた。また、運動会を見学したり、ボランティアの受け入れ等を行っていたが、新型コロナ感染防止の為、様々な行事が中止や自粛となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とのふれ合いや講習会を開いたり認知症の方への理解を深め合う事が大切だが実際にはなかなか実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方々の見方などに耳を傾けて、サービスの向上に活かして行きたいと思う。	運営推進会議は、自治会長・民生委員・地域包括・市職員など参加し、行事報告・今後の予定など意見交換を行っていた。コロナ禍の今は、書面にて活動内容や感染症予防対策、ヒヤリハットの発生について、原因と問題点などを報告し、助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは2ヶ月に一度運営推進会議を開き、実情の報告や意見交換を行っていますが、今はコロナ禍で出来ていないのが現状です。	介護保険制度に関する最新情報、新型コロナ対策や関連情報等のメール発信があり、確認しながら運営に活かしている。運営推進会議は開催できていないが、事業所の現状を報告し、助言や指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠しない時でもセンサー対応をしているが、一時的にでも施錠をしないと安全確保が困難な場合があるのが現状です。	医師や看護師を含めた身体拘束適正化会議を3ヶ月毎に開催している。会議内容は全職員に周知し、ミーティング時に現場の状態を報告しながら、拘束の弊害についての意見交換も行っている。スピーチロックについても正しく学び、利用者本位のケアについて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において職員による虐待はありませんが、今後も虐待について積極的に学ぶ機会を持ちたいと思います。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所されている利用者様に必要な方はおられませんが、今後必要な時は学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や入所の際、ご家族様に説明し同意を得ている。また、重要事項の内容に変更があれば事前に説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はご家族様からの意見、要望を定期的に取り出す機会を設けていない為、サービスの質の確保、向上につなげる為にもご意見箱などを実施し改善につなげる必要がある。	契約時に、利用者の日用品等の補充は家族の役割として担ってもらうことを説明している。その際に意見や要望を聞き、適切に対応している。コロナ禍であっても、家族が日用品持ち込む際に、利用者と玄関先や窓越しの面会を実施しながら、利用者の状態を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議の場で提案できる機会を設けている。	日頃、管理者も職員と同じシフトで現場に入り、職員の意見や希望を聞いている。備品購入や研修費など、法人で検討が必要な課題については、上層部で話し合う体制があり、管理者が根気よく働きかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場づくりとして、職員と面談する機会を設けて意見を聞く事が反映されていない。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は一人ひとりのケアの力量を把握し、全員のケアの統一や質の向上に努め、社内外の研修を働きかけ技術な知識を身に付けていく支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の同業者のネットワーク作りし、質の向上に取り組む事により、社内で行き詰っても相談したり解消し連携をスムーズに行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や利用者ご家族様など不安な気持ちを受け止めたり、耳を傾けたりしながら関係性を築いていく事安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場、利用者様の立場になり、受け止めながら耳を傾け不安を取り除く関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の実情や要望を本に事業所として出来る限りの対応に努めている。徐々に馴染み、安心、納得しながら利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、レクリエーションや行事を通じ、喜怒哀楽を共にし、本人様と時間をかけて関わっていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人様とご家族様の関係性を踏まえつつ、良い関係性を築いていける為の支援に努める。備品持参時等に面会をして頂けるよう声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の方との関係は思い出の中でしかなく、現在はあまり繋がりが無いが、利用者様の中にも信仰を持って見える方もおられ、関係者の方々がよく来られることがある。	開設当初から、利用者と家族の絆を大切にする方針のひとつとして、毎月、家族に日用品や消耗品を届けてもらっている。コロナ禍の今、利用者には現在の状況を分かりやすく説明し、直接の面会は行えないが、家族と窓越しの対面を支援するなど、孤独を感じないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、さらに関係性を見極めて席の配置を決め、利用者様同士助け合ったり楽しく過ごせるよう配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの理由で退所となった場合、先方へ本人様の状況、生活習慣、好み、ケアの方法などの情報を詳しく伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が自分らしく生活して行ける様に一人ひとりの思いや希望を把握する。困難な場合は本人様の視点に立ち、職員で意見を出し合い話し合い検討をしている。	職員は、アセスメント情報と日々の個別ケアの中で、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。把握した情報は職員間で共有し、利用者本位の支援が実現できるよう、申し送りノートで利用者一人ひとりの状態を確認しながらケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを配慮しながら、本人様、ご家族様との関係を築き、自分らしく暮らしていけるよう利用者様の歴史、サービス利用となった経過を知るようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活の流れに沿って、本人様の状況を把握し、出来ることや理解する事がどこまで出来るのか生活していく中で発見をする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の希望をふまえ施設内での生活の中での気付き、変化等を職員達で申し送り、カンファレンス等で共有し、意見をまとめ月に一度の見直しと確認を介護計画に活かしていく。	家族が毎月訪問しており、介護計画についての希望を聞きながら、計画の見直し及び確認を行っている。介護記録を参考に職員間で話し合い、担当者とケアマネジャーが中心となって、介護計画を作成している。今後は、家族が作成会議に参加できる体制作りを検討していくとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな気付き、変化を記録し毎月の申し送り、月に1回のミーティング等でのカンファレンスで職員全員で情報を共有しながら意見をまとめ実践や介護計画の見直しに活かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様各々個人に合わせてそれぞれのニーズに合う様支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様、ご家族様、知人の協力のもと理美容院、病院、知人、友人との外出や地域活動等を把握し、密な連絡を心がけ、本人様を支えていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医師だけではなく、本人と家族の希望を大切に、納得が得られた医師と施設との関係を築けるよう日々の様子、気付き等を細かく伝えられるよう心掛ける。	契約時に、かかりつけ医について、本人・家族に説明し理解を得ている。ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。専門医へは家族受診を基本としているが、管理者や職員が同行し、医師に説明するなど支援することも多く、受診情報も家族と共有している。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できるよう努めている。往診表を作成し、看護師に伝えないといけない事を時系列にしてまとめている。それに基づき看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	可能な範囲で情報交換や相談を行い、関係作りを行っている。又、家族とも退院後の過ごし方や対応について相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入所前に家族に説明している状態が変化するたびに主治医、看護師、家族と相談し支援している。又、状態の変化するたび、事業所でできる事を家族に説明(主治医より)している。	契約時に、重度化や終末期についての方針を利用者・家族に説明し同意を得ている。状態の変化時は早い段階で、医師を含めて関係者が十分に話し合いを行っている。主治医、看護師、家族が検討し、家族の希望を受け入れ、医師の判断で終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう、対応の流れがあり、職員は把握できている。又、ミーティングで確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を受けているが、実践的な取り組みや地域の人々との話し合いなどは行っていない。	法人全体で、夜間想定を含めた災害訓練を年2回実施している。運営推進会議に合わせて実施し、地域との連携、協力体制づくりに努めているが、地震災害については、実践に至っていない。備蓄品は法人で一括管理し定期的に点検をしている。	火災のみならず、地震や水害対策についても地域と話し合い、具体的な避難マニュアルの作成が望ましい。また、利用者が安全に避難できるよう訓練するなど、様々な災害への備えに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難しい問題だと思いますが、プライバシーの侵害だと感じさせることのないよう、上手に声掛けしながら介助させて頂けるようにしている。	職員は、常に理念を意識し、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。自己表現が困難な利用者であっても、本人の気持ちに寄り添い、時間をかけて思いを推測し、本人が望む暮らし方の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意志や希望を聞きながら、介助に入るようにしているが、集団生活なので、全て本人の思うようにはならない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態を見ながら、本人のペースに合わせて希望も聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、髪をといたり、髭剃り、顔拭きなどの介助をしたり、トイレ後の服の乱れなどがないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るように、状況に合わせて声掛けしたり、食べやすいようにカットや皿の位置を変えたりしている。	ご飯とみそ汁は法人の厨房で作り、副菜は配食サービスを利用している。利用者の楽しみに繋がるよう、居室に食事メニューを掲示している。また、食べたい物を聞いている。個々の状態を見ながら、形態を変えたり、適切な介助で完食につなげている。時々、検食日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日栄養士が考えた献立を食して頂いており、食間のお茶の時には声掛けをし出来る限り水分を確保して頂いている。利用者様の状態に応じて刻みの食事を出したり、居室にて水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者様には、朝か夕または、朝夕と1日1回～2回の歯磨き等を行って頂き、他の利用者様には声掛け等行い口腔ケアをして頂いている。また、義歯回収し、洗浄も行っている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な利用者様は起床時、毎食後、巡視の際にトイレ介助にてトイレでの排泄をして頂き、その他にも声掛けやトイレへの誘導等行っている。そうすることによって、パットやリハパンなどの使用回数を減らしている。	各居室に、トイレと洗面台が設置されており、排泄の自立が出来る利用者も多い。利用者の状態を見ながら、声掛けと誘導でトイレでの排泄が習慣になっている。排泄用品は家族が用意しており、情報交換をしながら適切な選択ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日3回の食事と1日2回のお茶の時間にて水分を摂って頂いている。排便は介助が必要な利用者様はその都度排便表にチェックし、介助不必要な利用者様は自己にて申告して頂いている。状況に応じて医者に相談し薬の処方をお願いし、日々の排便の状況に応じて服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様によって湯の温度を調節している。季節に応じて浴室内と脱衣場の温度調節もしている。介助の必要な方でもなるべくご自身で洗ってもらい、出来ないところで介助する。入浴の日でも利用者様の意志を尊重して決めている。	入浴は週2回であり、個浴で支援している。利用者が自分で出来る事は、手を出し過ぎないように心がけ、残存能力の維持を支援している。入浴困難な利用者の方は、2人対応やシャワー浴で支援している。今後は、重度化に向けて、適切な風呂場の改修も課題としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活習慣を尊重し、リズムを崩さず、本人にとって望ましい生活リズムを作っていく事が大切である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、服薬確認の取り組みが必要である。特に服薬後の手元、足元等確認が必要。又、服用中の身体変化には、十分な注意が必要である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を最大限、活用し、張り合い生きがいを持って頂く事が重要である。自分らしく生活して頂くよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で外出、面会等が困難であるが、施設内で可能な限り生き生きと過ごせるように支援する工夫が必要である。	法人内の広い庭を散歩したり、東屋のベンチに座り、庭の花や地域の子供たちが遊ぶ姿を眺めながら、外気浴を楽しんでいる。季節に応じて、大型車で皆で外出する支援を行っていたが、現在は新型コロナ感染防止の為、中止となっている。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レク費として、一定額を事業所にてお預かりしている。使途、報告等は毎月ご家族に合意して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は人と人とを結ぶ重要な手段であり、外部との交流に大切である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間を居心地良く過ごし、一人一人の感覚や価値観が大切である。	共用空間は整理整頓され、広くて明るい。福祉用具が必要な利用者も、安全に往来ができる広さがある。廊下も広く、少人数で会話を楽しめるスペースがある。利用者と職員の共同作品を掲示し、季節感と生活感ある空間になっている。行事の予定や入浴の順番なども掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数であっても集団という事で気持ちが悪くなったり、ストレスの原因になる事もあり、利用者様の思い思いのスペース作りを工夫する事が大切である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者様の使い慣れた物を本人や家族様と話し合い居心地良い空間を工夫してつくる。	各居室には、クローゼットや大きな洗面台がある。トイレも設置され、気兼ねなく使用できる。机と椅子があり、読書をしたり、手芸を楽しむ利用者も多い。使い慣れた時計や思い出の写真を飾り、趣味を楽しみながら、居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること、わかることを、安全に自立した生活を送って頂けるよう工夫する。		